

NINDJA



Indonesia Alternative Information

インドネシア民主化支援ネットワーク
Network for Indonesian Democracy, Japan

Oct. 2010 No.125

特集

インドネシア政府によるパプアの人権侵害
ムラピ山噴火にともなう救援活動をおこなった5日間
連載：日本＝インドネシア／島々に行く／モノ売り考
レンチョン／パリンド通信
今月のニュース



アベプラ刑務所内のフィレップ・カルマが撮影者である娘に笑いかけている。刑務所のなかであっても、モーニング・スター旗掲げることが忘れない（ジャヤプラ、07年撮影・アウドリネ・カルマ）

フィレップ・カルマに学ぶ インドネシア政府によるパプアの人権侵害

アンドレアス・ハルソノ*

2010年10月、動画配信サイトYouTubeにアップロードされたインドネシア国軍兵士によるパプア人拷問ビデオは、インドネシア国内だけでなく、国際社会にも衝撃を与えた。冷戦下に踏みにじられた独立、操作された住民投票、人権侵害と差別……多くの問題を抱えながらも、ほとんどその実態が知られていないパプアについて、政治囚の置かれている状況を中心に報告する。

■ アベプラ刑務所、政治囚への拷問の実態

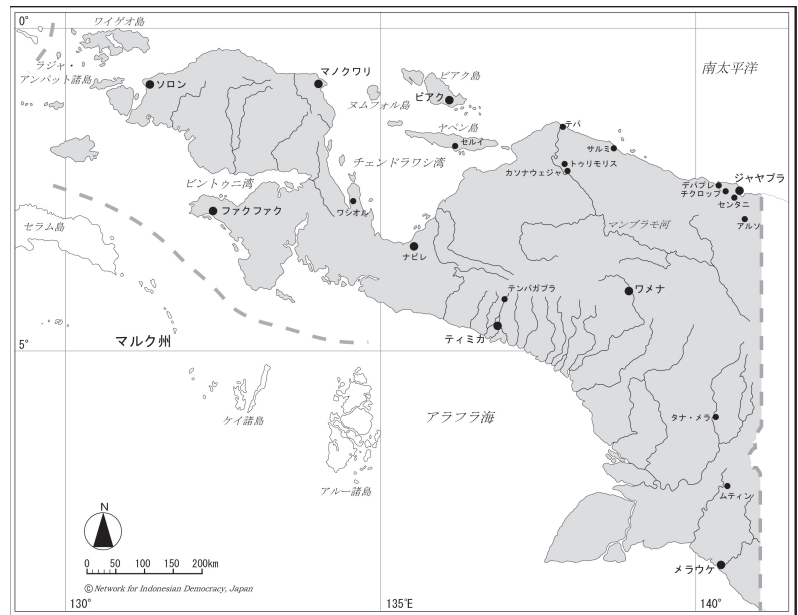
2008年12月のある日曜日、アベプラ刑務所を訪れた。パプア州都ポート・ヌンバイ（ジャヤプラ）の丘に建つオランダ時代の建物だ。パプアの団体が拷問に関する国連特別報告者マンフレド・ノワクに対し、刑務所内でさまざまな拷問がおこなわれていると手紙を書いたことで、この刑務所は関心を引いていた。南京錠で殴られ、鍵が右目に刺さった受刑者もいる。フェルディナンド・パカゲだ。この青年は駐車係だった。フェルディナンド・パカゲの目は治療されなかった。アベプラでは、殴る蹴るといった行為は日常茶飯だ。飲み水も問題だし、食事の質も悪い。

わたしは取調べ室を通った。刑務所長のアントニウス・アヨルババは、すべての携行品を預けるよう求めてきた。刑務所のホールには、日曜礼拝にあずかろうとしている30人ほどの面会者がいた。牧師が説教台に上り、わたしたちは歌い、祈り、説教を聴いた。

わたしの近くには1人の男性が座っていた。カール・マルクスのような髭を生やした男性だった。名前はフィレップ・カルマ、パプア政治囚の1人である。わたしは、自分が記者で、刑務所内の拷問について情報を集めているとささやいた。礼拝が終了し、フィレップ・カルマはわたしを政治囚フェルディナンド・パカゲ、ルイス・ゲディに紹介してくれた。

体格がよく、黒い肌をもつフェルディナンド・パカゲはメエ人だ。右目はへこんで見えた。彼

は多くを語らなかった。ただ 2008 年 9 月、看守に右目を刺されて以来、しばしば頭痛がすると言っていた。別の看守 2 人が、フェルディナンド・パカゲを蹴り、ゴムの棒で殴ったという。フェルディナンド・パカゲは、2006 年 3 月 15 日のチェンドラワシ大学前におけるデモの際、ラフマン・アリゾナという警官を殺害したという判決を受けた。しかし事件時、フェルディナンド・パカゲは家にいたというのだ。警官は 3 月 15 日、フェルディナンド・パカゲを逮捕し、体に熱湯を浴びせた。そして、頭、唇、足、腕、体から血が出るまで、パカゲを殴った。



フェルディナンド・パカゲは、公判の際、検察が準備した 2 人の証人—ルイス・ゲディ（パカゲの友人）とアリア・ムスタファ・サモリ（警官）—について、信用できないと考えていた。ルイス・ゲディは、自分の働く店から帰宅したところを、警察に逮捕され、拷問された。ゲディはわたしに、警官ラフマン・アリゾナを殺害したと認めるよう強制されたと語ってくれた。警察はさらに、ルイス・ゲディに別の容疑者の名前を挙げるよう求めた。ルイス・ゲディは仕方なく、友人の名前を述べたのだ。駐車係のフェルナンド・パカゲの名を。「警察は 20 回以上、わたしを殴った。わたしは大学前でナイフを捨てたと言った。殴られるのが我慢できなかったんだ」

警察がフェルディナンド・パカゲを大学に連れて行ったとき、もちろんナイフは発見されなかった。警官 1 人がフェルディナンド・パカゲの足を撃った。フェルディナンド・パカゲは、ナイフが家にあると供述を変えさせられた。警察はナイフを捜し、フェルディナンド・パカゲの母親の包丁が見つかった。フェルディナンド・パカゲの父親は息子の事件についてこう語る。「すべて嘘だ。包丁は野菜を切るためで、妻はいつも家に置いている」

アベプラ地方裁判所で、フェルディナンド・パカゲは禁固 20 年の判決を下された。フェルディナンド・パカゲ側の証人は 1 人もいなかった。「弁護士も擁護できなかった」

51 歳のフィレップ・カルマはビアク人で、国家公務員だ。彼は 2004 年 12 月から拘束されている。カルマは、パプアのエリート一族だ。父親のアンドレアス・カルマは、パプアでもっとも人気のある県知事のひとりで、1970 年代にはワメナ県知事、1980 年代にはセルイ県知事を務めている。1979 年、フィレップ・カルマは、中ジャワ州ソロ県の 3 月 11 日大学で政治学を学んだ。1987 年に大学を卒業したのは、ポート・ヌンバイの国家公務員として働きはじめた。1997 年、マニラのアジア経営大学院(AIM)で 11 カ月の講座に参加する奨学金を得る。1998 年、ジャカルタに戻った際、彼はジャワ島をまわり、独裁者スハルト政権に対する学生の抗議行動を目の当たりにした。「インドネシアに従いつづければ、パプア先住民族は拷問されつづける。20 年、30 年後には、パプア文化はなくなってしまうだろう。パプア人もいなくなるということだ」

パプアに戻ったフィレップ・カルマは、公然とパプア独立を支持しはじめる。1998 年 7 月 2 日、彼は独立支持行動を組織し、ビアクの町でモーニング・スター旗を掲げた。ヒューマン・ライツ・ウォッチの報告書では、このときデモ参加者のなかに警官が潜入し、煽動しようとしたと記されている。この警官は殴られ、歯が折れた。このことが警察とデモ参加者の衝突を招く。警察は 4 日にわたって、デモを解散させようとした。



アベプラ刑務所内のユサク・パカゲ
©Amnesty International

1998年7月6日、国軍がビアク島を掌握し、アンボンから派遣された第733大隊が4カ所からデモ参加者を狙撃した。死者の数はいまだ明らかでない。多数の遺体がトラックに載せられたと報告されており、海軍の船2隻から海に投げ捨てられたと考えられている。フィレップ・カルマは、ビアク近くの小島に遺体が埋められたのではないかと考えている。おそらく100人以上が殺害されたという。インドネシア政府は、この事件について真剣に捜査しなかった。

このとき、フィレップ・カルマはゴム弾で足を撃たれた。警察は150人を逮捕し、そのうちフィ

レップ・カルマを含む19人が裁かれた。フィレップ・カルマは1998年7月6日から10月3日まで勾留される。ビアク地方裁判所は1999年1月25日、デモを率いたとして、反逆の罪で禁固6年半の判決を受けた。フィレップ・カルマは控訴し、1999年11月20日には釈放された。

フィレップ・カルマは国家公務員として、再び働きはじめる。仕事は、パプアの国家公務員候補者の研修だった。大学生相手に話すことが多く、行政、法律、官僚制度について若者が学ぶ研修プログラムを運営した。

2004年12月1日、パプアの自治プログラムが、インドネシア政府によって破壊されたと考えたフィレップ・カルマは、1961年12月1日のパプア独立を記念する式典を組織する。式典には、パプアの学生・生徒ら数百人が参加し、「独立!」と叫び、モーニング・スター旗を掲げた。そして、失敗したと考えられる自治の拒否を呼びかけたのである。

警察は、このデモを強制的に解散した。衝突になり、群衆は角材、石、瓶で警察を攻撃する。警察は群衆に発砲して応酬した。フィレップ・カルマはただちに捕らえられ、反逆罪を犯したと非難された。2005年10月25日、アベプラ地方裁判所は禁固15年の判決を下す。仲間のユサク・パカゲは、禁固10年だった。

フィレップ・カルマは現在、パプアでもっとも人気のある指導者のひとりだろう。彼は内陸部の住民にも、海岸部の住民にも受け入れられている。目的を達成するために、暴力を行使したこともない。フィレップ・カルマは話す。「インドネシア政府と対話したい。尊厳ある2人の対話を。尊厳あるということは、暴力的な方法を用いないということだ」

フィレップ・カルマは、わたしにアベプラ病院にいるユサク・パカゲと会うよう提案してきた。刑務所から出て、わたしはタクシーで病院に向かった。ユサク・パカゲは、刑務所でいかに殴られたかを語ってくれた。

これが、ヒューマン・ライツ・ウォッチのために、わたしがパプア政治囚にインタビューした最初だった。その後、センタニ、マノクワリ、ファクファク、ナビレ、ワメナでもインタビューした。1年以上かけて、政治囚たちの証言を集めた。あわせてアンボン諸島のアリフル人政治囚にもインタビューした。ジョージ・J・アディチョンドロいわく、パプア人とアリフル人は「西メラネシア」と呼ばれるという。メラネシアは、ラテン語の「メラノ（黒）」と「ネソス（島嶼部）」から来る。つまり肌の黒い人びとが所有する島々の意である。わたしは「メラネシア政治囚」ということばが好きだ。2008年から2010年にかけて、メラネシア政治囚50人にインタビューした。

この調査の結果は2010年6月、ヒューマン・ライツ・ウォッチの「政治信条による訴追の横行：インドネシアの政治囚の実態」(<http://www.hrw.org/ja/news/2010/06/23-0>)と題する報告書

としてまとめられた。報告書は、パプアとマルクの政治囚 100 人以上の釈放を要求した。2010 年 8 月 16 日、アメリカ、ヨーロッパ、インドネシア、ティモール・レステの 25 の人権団体は、スシロ・バンバン・ユドヨノ大統領にメラネシア政治囚釈放を求める書簡を送付している。

しかしユドヨノ政権は、この罪のない人びとの釈放を重要だと考えなかった。いっぽうジャカルタでは、300 人の汚職犯罪者が恩赦を受け、物議を醸していた。アウリア・ポハン（訳注：元インドネシア銀行副総裁で、同銀行流動資金援助問題終結のため国会議員に贈賄、ユドヨノの長男とアウリア・ポハンの娘が結婚）にいたっては釈放されている。ユドヨノは、メラネシア政治囚より汚職犯罪者を釈放するほうが好きらしい。

■ 踏みにじられるパプア独立への思い



スカルノ大統領と J・F・ケネディ米国大統領
©<http://blog.agul.net/?p=276>



インドネシアへの併合か独立かを挙手して選択する住民投票には、秘密の原則はなかった ©<http://sampari.blogspot.com/2010/07/saul-pepera-hasil-rekayasa-bukan-murni.html>



セイス・エルアイの棺

パプアにおけるインドネシア政府による人権侵害

■ 政治囚釈放のためキャンペーンを

2009年8月17日、突然フィレップ・カルマから電話が入った。か細い声で、病気で、5日間小便ができないと言った。尿道に問題があるようだった。

わたしは、治療を受ける許可を得たか尋ねた。アン



この写真が『ビントアン・パプア』紙に掲載されてはじめて、フィレップ・カルマは病院に行くことを許可された ©Bintang Papua

トニウス・アヨルババ刑務所長は、フィレップ・カルマを刑務所の保健室に連れて行かせ、保健室の看護師はただ水をたくさん飲み、足を上げて寝るよう命じただけだった。わたしは、本当に失望した。受刑者は、刑務所内で治療を受ける権利を有するというのに。幸運なことに、その日、『ビンタン・パプア』紙の記者がフィリッパ・カルマの写真を撮影していた。翌日、刑務所長は、フィレップ・カルマをポート・ヌンバイの第2ドック病院へ連れて行くことに賛成せざるを得なかった。



学生活動家がアベプラ刑務所内の政治囚への支援を求めてカンパを呼びかける ©Garda Papua

フィレップ・カルマは2009年8月から10月まで、第2ドック病院で治療を受ける。病院は、フィレップ・カルマがジャカルタで泌尿器の手術を受けるべきだと判断した。しかし刑務所長は、フィレップ・カルマの家族に対し、自身には移送許可の権限がないから、ポート・ヌンバイの法・人権局長に許可を申請すべきであることを、政府に資金がないことを伝えるだけだった。こうして数カ月間、フィレップ・カルマはピンポンの球のように、あちらこちらへと飛ばされた。資金がいつも問題となった。

一部の活動家が2010年3月8日、フィレップ・カルマとフェルディナンド・パカゲの治療のため、道路で寄付を募りはじめた。彼らは最初の2日間で2500万ルピア（約25万円）を集めた。しかし法・人権局も刑務所も、ジャカルタでの治療に許可を出すことを拒みつづけた。

2010年5月はじめ、パプア人のアントニウス・アヨルババに代わって、バタック人のリバティ・シティンジャックがアベプラ刑務所長に就任する。この交代によって、フィリッパ・カルマがジャカルタで治療を受ける道が開けたのである。

フィレップ・カルマ自身は、フェルディナンド・パカゲと一緒になければ、ジャカルタに行かないと述べていた。フェルディナンド・パカゲのほうが長く病んでいるからだという。しかし活動家やフェルディナンド・パカゲの家族は、フィレップ・カルマのほうが高齢なのだから、先に出発するよう説得した。こうしてフィレップ・カルマは、ジャカルタに出発することになった。

フィレップ・カルマは2010年7月19日、母親エクレフィナ・ノリワリら親族、刑務所職員2人らとともにジャカルタに到着する。ジャカルタにいるあいだ、フィレップ・カルマを正式に預かることになるチピナン刑務所への引き渡しは、チキニ病院でおこなわれた。

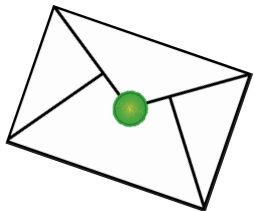
7月22日、2時間にわたる前立腺のレーザー手術は成功した。フィレップ・カルマもうれしそうで、よく笑い、冗談を言っていた。病院の警備はもちろん非常に厳しかった。チピナン刑務所職員2人に加え、中央ジャカルタ県警、国家情報庁（BIN）職員が警備していた。フィレップ・カルマの家族も、ジャカルタのパプア人学生の助けを借りて、フィレップ・カルマを守った。フィレップ・カルマは2010年7月30日、アベプラ刑務所へと戻っていった。

フィレップ・カルマは、トム・ワンガイのようにならなかったことで安心していた。フィレップ・カルマは、インドネシアによる人権侵害の被害者となった多くのパプア人のひとりではない。そしてフィレップ・カルマは2019年まで、刑務所に収監されることになる。彼は一貫して、恩赦を拒否しつづけている。恩赦を受け入れれば、罪を犯したことを認めたことになると考えているからだ。フィレップ・カルマは実際、無実である。不公正に収監された。フィレップ・カルマのような政治囚を釈放するよう、インドネシア政府に圧力をかけなければならない。

* ヒューマン・ライツ・ウォッチ・インドネシア

ニンジャだより

団体名 NINDJA は Network for Indonesian Democracy, Japan の略称です



ニンジャの活動を支えてください！

賛助会員 年会費 1口 10,000 円以上

- ・年 5 回発行されるニュースレターの配布
- ・毎日発信される電子メール情報の配信

ニュースレター購読会員 年会費 4,000 円

- ・年 5 回発行されるニュースレターの配布

電子メール購読会員 年会費 4,000 円

- ・毎日発信される電子メール情報の配信

カンパをお願いします！

みなさまからいただいたカンパは、責任をもって、インドネシアに届けさせていただいています。活動の詳細はホームページ <<http://www.nindja.com>> をご覧ください。

●アチェへの人道支援

<アチェ女性支援>

北アチェ県で、「軍事作戦地域寡婦フォーラム」に属するグループ、スマトラ沖地震・津波の被災者グループに、生計手段の支援活動をおこなっています。

郵便振替 00190-8-76398

口座名 アチェ人道支援キャンペーン

※「女性」とご明記ください

<「父親を亡くした子どもたち」への奨学金>

北アチェ県 7 カ村で、軍事作戦によって父親を殺された子どもたちに奨学金を供与しています。

郵便振替 00190-8-76398

口座名 アチェ人道支援キャンペーン

※「奨学金」とご明記ください

●「インドネシア人権基金」

国家による暴力犠牲者の治療費、不当逮捕された活動家や住民の裁判費用など、緊急の事態のための積立金です。

郵便振替 00150-1-554395

口座名 インドネシア人権基金

編集後記

今号も大幅に発行が遅れてしまいましたこと、お詫び致します。／次号はインドネシア国軍、自治体警察などを特集予定です。／編集後記初登場です。今号がはじめての編集作業でしたが、なんとか完成して一安心です。(会田)

●月×日

読んでいると情景を思い浮かべられる文章というものがある。今回、パプア人政治囚の実態について寄稿してくれたアンドレアス・ハルソノの原稿もそうだった。刑務所内での拷問をリアルに想像し、思い出したのは本文でも登場する 1998 年 7 月 2 日にビアク島で起きた事件だ。

事件の 1 カ月後の 8 月 1 日、わたしは現場となった港近く、モーニング・スター旗が掲揚された貯水タンクを訪れた。貯水タンクには生々しい銃弾の痕が残し、それを眺めるわたしを、周囲の住民は家のカーテンの裏から覗いていた。外を歩く人はひとりもいなかった。当時の日記には、次のように書かれている。



「7 月 2 日、人びとは集まって歌を歌っていた。軍隊、警察はなにも手出ししなかった。しかし 6 日の午前 5 時ごろ、貯水タンクの周りを軍隊、警察が囲んだ。10 時まで 5 時間にわたって、銃撃の音が聞こえていた。何人の人が死んだのか、何人が行方不明になったのか、わたしが話を聞いた男性は知らないという。彼は涙を目にたたえ、「誰がどこで聞いているかわからないから話せない」と言った」

この事件でフィレップ・カルマは逮捕され、いまでも刑務所に収監されている。12 年以上がたち、パプアの状況はまったくよくなっていないということを改めて痛感させられた。(佐伯)

今月の写真 (表紙)

ジョグジャカルタ特別州環状道路北側 (クントウンガン交差点) の風景。ムラピ山が噴火した弊害がジョグジャの街中にまでおよぶのは、数十年ぶりのこと。10 月 30 日午前 1 時の噴火により、ジョグジャに灰が降った。同山の半径 20km 圏内では、雨のように降りかかる灰を吸い込まないように、住民はマスクを着用している。(写真: ハルン・スアイビー、文: ギト・ニルボヨ)



インドネシア民主化支援ネットワーク

Network for Indonesian Democracy, Japan

Indonesia Alternative Information

No.125 Oct. 2010

〒157-0065 世田谷区上祖師谷 1-32-2-101

FAX: 03-5313-4470

<http://www.nindja.com/>

editor@nindja.com (編集) office@nindja.com (事務)

郵便振替口座

口座番号: 00140-5-37561

口座名称: インドネシア民主化支援ネットワーク